

山内委員長記者会見のポイント
(第 259 回 (3 月 23 日) 郵政民営化委員会終了後)

1. 本日の委員会議事について

- 株式会社かんぽ生命保険の子会社の認可申請について、まず、株式会社かんぽ生命保険から説明があった。次に、意見募集を行った結果、団体等から 4 件、個人から 2 件の意見があり、賛成 3 件、反対 1 件、その他 2 件であったことの報告を受けた。また、金融庁・総務省からヒアリングを行った他、意見書の論点整理を行った。今後、これらを踏まえて、意見の取りまとめを行うこととした。

- 日本郵政グループから、コンプライアンス遵守の状況についてヒアリングを行った。

2. 委員会の質疑応答等について

【株式会社かんぽ生命保険の子会社の認可申請について】

- ・ 「人材の確保と案件をどのように見つけてくるのか説明願いたい。」との質問に対して、

かんぽ生命から、「人材については、知識・経験のある人材をファンドマネージャー等で確保している。経営部分では、当社にもベンチャー出資を経験していた人材がおり、社長におきたいと考えている。ソーシングについては、ベンチャー企業について情報提供している会社から情報を得て、例えば、ヘルスケア事業のベンチャー企業は 1,200 社ほど存在するので、こうしたベンチャー企業にヒアリング等をしながら、様々な事業先を探している。」との回答があった。

【日本郵政グループのコンプライアンス遵守の状況について】

- ・ 「お客様や社員からの声を吸い上げて、どのように改善したのか、また、どういった成果を上げているのかについて、きちんと明示して社員と共有すると、コンプライアンスの観点から良い方向に向かうのではないかと考える」という指摘が複数の委員からあった。

3. 記者との質疑模様

- ・ (近い将来、金融サービスが全体的にスマホで完結する姿になっていくと思うが、そうした時代の中で郵便局が来局者を確保していくために、どのような所に力を入れていくべきと考えるか、と問われ、) 中期経営計画にも書かれているとおり、DX の進展に対して郵便局がどう対応していくかについては、デジタルとリアルの接点をいかに埋めていくかという所に郵便局の存在意義や価値があると思う。DX ということで IT 化がどんどん進んでも、みなさんがそれについていける訳ではなく、そのギャップをいかに埋めていくかが郵便局の魅力になっていくのではないかと考えている。